

普及センターだより 256号

経営に新しい風を吹かせよう

家族のコミュニケーションから生まれる「家族経営協定」

普及センターでは、魅力ある農業経営と農家生活を築くため、女性農業者や農業青年など家族の就業条件を整備し、家族各々が意欲的に経営参画することをねらいに、市町村・農業委員会・関係機関と連携をはかりながら、家族経営協定を推進しています。



女性農業者を対象とした「暮らしの夢講座」や認定農業者とその家族への働きかけなどをとおして、これまでに35件の農家が家族経営協定を締結しています。

協定に盛り込まれている内容は、

- 1 労働報酬の取り決め
- 2 休日・労働時間の設定
- 3 農作業と家事作業の役割分担
- 4 経営方針への参画
- 5 社会活動への参加

などが主となっています。

締結の効果としては、個人を尊重してその役割を明確にすることで、働く意欲の向上と経営のパートナーとしての自覚が高まり、経営の発展や改善に寄与していることが伺えます。

さらに年に1度は協定書の見直し会議を開くなど、家族で検討する場面を持つことも勧めています。いずれにしても家族でのコミュニケーションなくしては経営の改善や発展はみられません。「文書にしなくても」と言わずに、家族のルールを書き出してみるときっと何かが見えてきます。

「家族経営協定」を夫婦で、家族で検討することで、経営に新しい風を吹かせましょう。

実践！ 環境に優しい農業

トマトの褐色根腐病に高い効果 ~ 土壌還元消毒法

ハウス半促成メロン 抑制トマトの作付体系で、抑制トマト前にフスマを利用した土壌還元消毒を行った2ほ場（ハウスA、ハウスB）の現地試験結果を紹介します。

昨年6月25日に処理を行い、約3週間ハウスを密閉しました。ハウスAは湛水状態にはなりませんでした。ハウスA・Bとも、4日目頃にはドブ臭を

確認できました。そして収穫終了時の翌年1月11日にトマトの根を掘取り褐色根腐病の発生状況を程度別に調査しました。

ハウスAは還元消毒区と無処理区を、ハウスBは還元消毒区と太陽熱消毒区を設けました。根部調査の結果は、表1のとおりです。還元消毒区の褐色根腐病の発病程度は、無処理区および太陽熱消毒区と比較して低く抑えられ、効果の高いことが確認されました。

		発病株率 (%)	発病度
ハウスA	還元消毒区	96.7	26.5
	無処理区	100	80.6
ハウスB	還元消毒区	14.2	3.5
	太陽熱消毒区	38.2	9.5

		被害株率 (%)	被害度
ハウスA	還元消毒区	26.7	6.7
	無処理区	15.0	2.8
ハウスB	還元消毒区	0	0
	太陽熱消毒区	65.0	28.0

ネコブセンチュウにも有効

表2のハウスAのように無処理区と変わらない場合もありましたが、大方の試験結果は、ネコブセンチュウによる被害程度が対照区と比べて軽く、効果の高いことが確認されています。

食味を良くするための水稻の管理

米の食味に影響するタンパク含有率は総籾数と登熟度に左右されます。このため、『穂数、総籾数を多くし過ぎないで登熟を高める』『倒伏させない』ことでタンパク含有率を減らすことが重要です。

幼穂形成期の葉色・茎数と穂肥の施用量・時期が重要！

まず、幼穂形成期の稲の姿を表1で確認してください。標準の範囲内の場合には、窒素成分で10a当たり3kg前後の穂肥を幼穂長1cm(出穂前18日)の時期に実施します。過剰や遅い施用は窒素成分が残りタンパク含有率が増加します。

品 種	穂肥施用目標1株当たり茎数(60株/坪)			葉 色	草 丈
	砂 質	壤 質	粘 質	(カラースケール値)	cm
ふさおとめ	32 ~ 34		29 ~ 31	4	55
ひとめぼれ	31 ~ 33			4.5	65
コシヒカリ	26 ~ 31			3.3 ~ 3.8	70以下

範囲外の場合は表2を参照

ふさおとめは、穂肥の時期が遅れると極端にタンパク含有率が増すので、葉色が濃い場合は遅らせず、適期に量を減らして施肥してください。同様の理由から緩行性肥料の追肥は控えましょう。

玄米の肥大は開花後25日頃まで続きます。この時期まで、間断灌漑の実施で根の活力維持に努めましょう。

	茎 数 多 い	茎 数 適 当	茎 数 少 な い
葉色濃い	穂肥はやらないか遅らせる 倒伏軽減剤の検討	遅らせる	遅らせる
葉色薄い	遅らせて減らす 窒素成分は1kg/10a	やや早める	早めて2~3回に分施する 総量はやや多め

ケイ酸の効果

高温・低温など気象条件の悪い場合や砂質土でケイ酸が不足しやすいほ場で効果があります。

施肥はケイ酸カリ10a当たり20~40kgを出穂前45~40日(中干し前)に施します。この場合、穂肥の時期には窒素成分だけを塩安などで施す必要があります。

パンジーの秋出し栽培

パンジーの秋出し栽培は、播種期が7～8月の高温期となるため、いかに温度を下げた環境を整え株を徒長させないことが重要なポイントとなります。

播種方法

播種はセルトレイ（288穴または406穴のトレイを使用）に播種専用土を詰めます。種子は5～8で低温貯蔵したものを使うと発芽揃いが良くなります。種子は1穴に1粒播き、覆土はバーミキュライトを使用し種子が見えない程度とします。

発芽までは用土を乾燥させないように注意し、発芽をしてきたら徒長させないように管理します。また、高温期なので通気を良くし、できるかぎり涼しい環境づくりに努めます。

水管理は、播種後十分に灌水し種子の吸水を促します。発芽後は控えめの灌水を行います。その後は、過湿とならないような管理を行います。

育苗期間は、約30日程度とします。

定植

本葉が3～4枚に展開したら10.5cmのポリポットに鉢上げを行います。

鉢上げ用土は、赤土、完熟させた堆肥を混合し調整します。堆肥の良否が品質に大きな影響を与えるのでpH、ECの検査を行いましょう。

元肥はマグアンプなどを用土1リットル当たり2～3g程度施し、追肥は葉色を見ながら液肥を使用します。

わい化剤処理

秋出し出荷の作型は、軟弱徒長となるため、わい化剤の処理が必要となります。育苗期に一度処理し、徒長しやすい品種は再度、処理を行います。

直売に向く野菜 ・ 花づくり

アスパラガス

労力不足等によりトマト ・ キュウリ以外の軽い作物の導入希望農家に休閒ハウスやパイプハウス利用により手軽に栽培でき、地域の直売所等で人気商品となるおすすめ作物です。

栽培概要	
品 種	ウエルカム
播 種	9月上旬
定 植	2月中旬
収穫始	1年目 : 6月中旬 2年目 : 2月中旬
収穫終	10月中旬

アスパラガスの特徴

定植1年目から収入があり、収穫量は日照条件のよい7月～9月が多い。栽培管理は定植時の土づくりを除けば、定期的灌水 ・ 追肥と数回の虫害防除のみ

収穫は毎日ですが、出荷調整は軽く ・ 短時間に処理でき、高齢者や婦人でも管理できます。

栽培ポイント

茎枯病対策

- パイプハウス等での栽培 ・ 高温期の株元灌水をさけます。
- ベッドづくりは入念に

- 植溝を1m掘り、多量の籾殻や木の葉等を入れます。

施肥量

- 灌水量が多いほど茎葉の生育は旺盛となり、多収となります。

まめな灌水

- 施肥で草勢や葉色の持続で、追加茎立ちをさけます。

春芽収穫から1ヶ月で立茎させます。

- 茎径は10～14mmの範囲 ・ 本数は9本/平方メートル程度
- 摘芯位置は120cm ・ 細い茎はすべて取り除く。

最終施肥時期は9月

- 灌水は茎葉が黄化するまで続けます(翌年の春芽に大きく影響)
- 気温が低下したらハウスはできるだけ開放し、養分の集積に努めます。寒い時期に堆肥や石灰 ・ 肥料を施用し、土づくりをします。

フレッシュ・ニューファーマー 観葉植物はまかせとけ！（はっば会）

山武郡は、千葉県でいち早く、昭和37年頃から観葉植物生産が始まった地域です。近年、花き経営の中でも、特に経営者の世代交代が進みつつあります。その中で、後継者7名が主体となり、平成13年4月、「はっば会」を結成しました。



活動内容は、日頃、経営のなかで、疑問に思うことをみんなで解決しようとするものです。「どうも挿し木の活着率が良くない」「鉢用土はこれでいいの？」などの生産面での疑問には、試験区の設置や視察研修会などを行い、「いくらで売れてるの？」「儲かっているの？」などの経営面での疑問には、パソコンを利用したデータ分析などを行っています。また、自分たちの生産する植物を広く知ってもらうため、イベントなどでのディスプレイも行っています。その腕は、回を重ねるたびに評判も上々です。今後は、もっと消費者とコミュニケーションを図るため、ホームページの作成も検討しています。

新しい技術や経営感覚に磨きをかけ、両親に負けない経営をめざし頑張っています。

第256号（2002年6月1日発行）より
山武農業改良普及センター